

(3) Crowne Plaza West Hanoi Residences

[日時]	令和元年 7 月 31 日(水) 15:45 ~ 17:00
[場所]	Crowne Plaza West Hanoi Residences(以下、クラウンプラザホテル) 会議室
[出席者] 敬称略	クラウンプラザホテル Mr. Barun Jolly (General Manager) 冒頭のみ、Mr. Do Thi Khanh Van (Executive Housekeeper)、他 2 名 ベトナム天然資源環境省(MONRE) Mr. Nguyen Hoang Duc, Mr. Tran Duy Khanh ----- 環境省 小澤 守 公益財団法人日本環境協会 藤崎 隆志、小林 弘幸

クラウンプラザホテルは、インターコンチネンタルホテルやホリデーインなど 100 カ国 5,000 以上のホテルを運営するインターコンチネンタルホテルズ(IHG)グループのホテルである。

食材の管理は徹底して行っており、調達する食材はオーガニック食材や VietGAP 取得サプライヤーから手配するほか、毎月 1 回サプライヤーを訪問のうえチェックするほか、第三者機関に監査も依頼しているという。食品残さについては、オーダー毎で調理するためコントロールが可能であることからほとんど発生せず、発生した場合は使用後 2 時間で廃棄し、食品廃棄物とほかの生活ごみは廃棄時には分別しているが、生活ごみとして毎日処理業者が回収している。食品廃棄物は発生量を計測し、記録しているほか、廃棄物は処理業者と定額契約のうえ処理している。

IHG グループでは、各ホテルに省エネやリサイクルの実績を毎月報告させているほか、設定された目標に未達の場合は強い注意を与え、PDCA の徹底を求める。そのため、三か月に 1 回、定期的に省エネの訓練を全従業員に行うほか、設備関係も消灯の自動化(人感センサー等)を進めている。備品、機器、設備などすべて IHG グループのポリシーに従って調達し、備品はグループ指定のジョンソン・エンド・ジョンソン(J&J)から調達している。省エネ製品を購入するポリシーがあるが、最も重要な基準は安全であり、環境配慮は次点となる。IHG グループは低炭素やグリーン成長などを経営の柱とし、各ホテルにランク付けしており、最も特徴的な考え方として低炭素の取組が利益率より比重が大きいという。



打合せの様子

(4) InterContinental Hanoi Westlake

[日時]	令和元年 8 月 1 日(木) 9:30 ~ 11:00
[場所]	InterContinental Hanoi Westlake (以下、インターコンチネンタルホテル)
[出席者] 敬称略	<p>インターコンチネンタルホテル Mr. Erik Daniels (Executive Assistant Manager)、Mr. Tran Duc Kien (Deputy General Director)、Mr. Nguyen Cao Tuan (Hotel Chief Engineer)、他 2 名</p> <p>ベトナム天然資源環境省(MONRE) Mr. Nguyen Hoang Duc, Mr. Tran Duy Khanh</p> <hr/> <p>環境省 小澤 守 公益財団法人日本環境協会 藤崎 隆志、小林 弘幸</p>

インターコンチネンタルホテルは、前述のクラウンプラザホテルと同じく IHG グループのホテルであり、ベトナムでは 5 つのインターコンチネンタルホテルを運営している。

食材については、市の食品安全衛生局からの認証を取得したサプライヤーからのみ調達している。VietGAP 適合サプライヤーからも調達しているが、より高額となるため VIP 用などの一部の食材のみ仕入れている。廃棄物費用は重量に応じて処理業者より請求されるため、計測しているものの正確に計測しているわけではない。廃棄物は、ハノイ市人民委員会に属する国営企業である Hanoi Urban Environment One Member Limited Company (URENCO¹¹) に依頼している。食品リサイクルについては、ベトナム全土から多くの食品廃棄物が発生するが、リサイクルできる工場がベトナムには非常に少なく、食品リサイクル工場の整備には政府の援助が必要だと自身の見解も語った。なお、IHG グループには廃棄物や有害物に関する方針があり、すべて厳しく管理されているほか、食品廃棄物を削減する目標も掲げられているという。

備品は、IHG グループの方針により J&J から調達している。IHG グループの内部監査が年 3 回行われ、食品衛生、サービスの品質、リスク管理、水質などベトナムの法規より厳しい基準で監査される。また、ベトナム政府は年 4 回、排水についてチェックしており、ハノイ市のすべてのホテルは 3 年前から排水処理業者に配管を通して排水することが求められたという。



打合せの様子

¹¹ URL: <http://urenco.com.vn/en/> (ベトナム語)

3) トレーニングセミナー

(1) 開催概要

タイトル	Common Workshop Eco-label criteria for restaurants in Japan and the best products in Vietnam
日時	2019年8月2日(金)
場所	ベトナム・ハノイ
会場	Bao Son International Hotel (No. 50 Nguyen Chi Thanh Str., Dong Da Dist., Hanoi, Vietnam)
主催	ベトナム天然資源環境省(Ministry of Natural Resources and Environment: MONRE)
出席者 * 敬称 略	事業者、ハノイ市周辺の自治体担当者、大学教授など約30名 <日本からの出席者> 小澤 守 環境省大臣官房環境経済課 製品対策・グリーン契約推進係 環境専門調査員 藤崎 隆志 同 エコマーク事業部 事業部長 小林 弘幸 同 エコマーク事業部 事業推進課 主任
言語	ベトナム語

(2) 会議の概要

本トレーニングセミナーは、2019年8月2日(金)にベトナム・ハノイにある Bao Son International Hotel で開催された。ベトナム・グリーンラベルは、2009年の決定(Decision) No. 253/QD-BTNMT」によって開始されて以降、17基準が制定されているものの、認定累計製品数が59と伸び悩んでいることが課題となっている。消費者もさることながら事業者への認知度が低いことが原因として挙げられている。そこで、グリーンラベル制度の普及に向け、まずは認証数を増やしていきたいという MONRE の意向があり、事業者に向けてタイプ 環境ラベルを取り巻く世界的動向や海外での活用状況、取得メリット等を紹介することで、事業者の関心を高めて認証取得の促進につなげたいとの考えから、本トレーニングセミナー開催に至った。

エコマーク事務局からは、タイプ 環境ラベル及び GPP を取り巻く世界的動向や日本のタイプ 環境ラベル「エコマーク」の紹介、エコマークを活用した日本でのビジネスチャンスなどタイプ 環境ラベルの海外事例の一つとして情報提供したほか、グリーンラベルのレストラン及びホテル基準案策定に向けて、エコマークのレストラン、ホテル基準を同分野の事例紹介として発表を行った。

MONRE からは、本トレーニングセミナーが開催された背景やグリーンラベル制度の概要、環境に配慮したビニール袋の優遇政策、ベトナム GPP について発表が行われた。

(4) 会議の内容

Opening

開会に先立ち、MONRE VEA 環境品質管理課課長 Mr. Le Hoai Nam より開会の挨拶があった。Mr. Le Hoai Nam は、参加者に向けてベトナムにおける環境政策への協力と本セミナーへの参加について謝辞を述べるとともに、本トレーニングセミナーの開催背景について触れた。日本国環境省の協力のもと、2019 年はレストラン及びホテルの基準策定を予定しているほか、他の機関とも協力して繊維製品やその他の基準の制定を目指していると、今年度のグリーンラベルの活動計画を紹介した。特に、ベトナムの観光産業は主要産業の一つであり、国際的にも同分野の環境意識が高まっていることを踏まえ、レストラン・ホテル基準が制定された際は、ぜひ多くの事業者を取得を検討してもらいたいと述べた。

本トレーニングセミナーでは、ベトナムでの環境政策や企業支援制度について MONRE から説明するほか、ベトナム・グリーンラベルと同じタイプ 環境ラベルである日本のエコマークからは、日本の取組を紹介してもらうこととなっている。日本のエコマークは 30 年以上の経験があることから、環境活動に関心の高い参加者にとって非常に参考になるだろうと期待を寄せた。その他に、ベトナムの環境政策、企業支援制度について説明すると議事次第を紹介した。

最後に、策定を進めている基準案は近いうちの公開を目指したいと話し、ぜひ多くの方からの意見を募りたいと語った。2019 年末の制定を目標に、策定を進めていきたいと意気込みを語り、挨拶を締めくくった。

Tổng Quan Về Nhãn Xanh Việt Nam Và Chính Sách Mua Sắm Công Xanh (機械翻訳：ベトナム・グリーンラベルとグリーン産業の調達方針の概要)

MONRE VEA 環境品質管理部の代表者より、ベトナム・グリーンラベル及び GPP の概要について説明があった。2009 年に「決定(Decision) No. 253/QĐ-BTNMT」にてベトナム・グリーンラベル制度の立ち上げが承認され、現在までに 17 品目の基準を公布している。その品目とは、洗剤やバッテリー、LED などである。続いて、グリーンラベルの申請手順について説明した。グリーンラベルの認証手順は、



2013 年に公布された「通達(Circular) No. 41/2013/TT-BTNMT」によって定められており、認証に要する日数は 30 日間程度となっている。申請書類等は、MONRE ウェブサイトから入手可能となっており、取得に係るすべての費用が無料である。無料である理由は、グリーンラベル制度がまだパイロット事業という位置付けで、一部国家予算からの支援があるからだと述べた。

次に、環境配慮型プラスチックバッグ認定制度について触れた。2010 年に制定された「環境保護税法」により、環境に有害なビニール袋に税金が課されるようになった。そして、環境保護税法をもとに制定された「通達(Circular) No.07/2012/TT-BTNMT¹²」では、当通達に定められた要件を満たすビニール袋については免税されることになり、現在までに約 50 製品が認定を受け

¹² URL: <http://extwprlegs1.fao.org/docs/pdf/vie117977.pdf> (英語)

ているという。

これらの環境配慮型製品の開発や製造にはそれなりのコストがかかる。そこで、政府機関などの公的機関が優先的に環境配慮型製品を調達する GPP 制度によって、環境配慮型製品を製造する事業者を支援したいと考えている。2014 年に改正された環境保護法の第 44 条とその実施規則の位置付けである「通達(Decree)19/2015/ND-CP」にて、公的機関はグリーンラベル認証製品の調達が奨励されている。しかし、現在、公共調達については財務書が所管する調達法に順ずる必要があり、環境側面より経済性が優先されている状況である。そのため、MONRE では国家予算を管轄所管である財務省(MOF)、入札を管理する計画投資省、品質管理を所管する商工省と、GPP の実効性を高めるため協議を進めている。また、GPP に関するいくつかの法令が公布されているものの、具体的な導入方法や実施方法が明確ではないことも課題であると感じていると述べ、より GPP を普及させていくためにはガイドライン等を作成していきたいとも語った。

③Type 1 Eco Label in Japan, Overview, Experience and Business Chance in Japan through Eco Mark (エコマーク事務局 小林弘幸) 資料編 2-1-1

続いて、エコマーク事務局の小林からは、ベトナム国外のタイプ 環境ラベル制度の事例紹介として、日本の「エコマーク」の取組や経験を紹介する発表を行った。



まず、環境問題を取り巻く国際的な動向について紹介した。世界では「持続可能性」がビジネスのキーワードになりつつあり、持続可能性に取り組みない事業者が市場から淘汰され始めている。2015 年には、国連が「持続可能な開発目標 SDGs」を採択し、世界各国が SDGs 達成に意欲を示す姿勢を取っており、様々な政策が展開されている。17 の目標から成る SDGs の目標 12「つくる責任、つかう責任」に注目し、12.3 では食品ロス削減が、12.7 では持続可能な公共調達が掲げられている点を紹介した。また、海洋プラスチック汚染問題を中心とした使い捨てプラスチック問題は、世界がいま最も注目されている課題であるとし、タイプ 環境ラベルとしても積極的に取り組む必要があると述べた。

次に、改めてタイプ 環境ラベルについての解説を行った。ISO による区分から、第三者認証、製品・サービスのライフサイクルを考慮した基準作りなどの特徴、省エネラベル等の単一側面のみを評価する環境ラベルとの違いについて解説した。そのうえで、エコマーク制度の概要に触れるとともに、エコマーク及びベトナム・グリーンラベルがメンバープログラムとなっているタイプ 環境ラベルの国際ネットワーク組織である「世界エコラベリング・ネットワーク (GEN)」を説明した。さらに、GEN メンバー間で相互認証が盛んに行われており、エコマークとベトナム・グリーンラベルとの将来的な相互認証締結を見据えて、協議を実施していることにも触れた。加えて、SDGs ターゲット 12.7 にて「持続可能な公共調達(SPP)の促進」が示されていることから、GPP や持続可能な公共調達を重要施策と位置付ける国が増えてきており、その GPP や SPP の実効性を高めるツールとしてタイプ 環境ラベルが重要な役割を担っていると話